

### 8.2.6 「T7」(新技術開発7つ道具)

表8.2.2に「T7」の各ツール名および目的と、「T7」を活用し「流動化処理プラント」の技術を開発した事例を示す。

#### ① 技術開発企画段階

開発ニーズを「開発情報シート(T1)」により把握し、「品質表」で品質機能展開とAHP法を活用して数値的評価を行うとともにネック技術を抽出し、「技術開発企画書(T2)」でコストや開発工期・必要経営資源、開発目標を明確にすることができるようになった。

表 8.2.2 「T7」(新技術開発7つ道具)の目的

名称	目的
T1 開発情報シート	ニーズの具現化と調査検討結果を記載し、企画への確に反映する。
T2 技術開発企画書	開発目的・目標を明確にし、必要資源・工程・工期等を明確にする。
T3 ネック技術解決対策書	ネック技術解決のための詳細計画で達成目標・解決策・標準化の方法を明確にする。
T4 設計目標管理表	品質特性と目標値および可否判定基準を明確にし設計の検証を行う。
T5 不良解析シート	根本原因を追求し、技術標準などへ反映し再発防止する。
T6 開発品質評価表	設計品質の判定のため、検証と評価を行う。
T7 開発不具合工程分析表	不具合を発見すべき工程・発見工程・発生工程の3つに分析し、開発のしくみの弱点を改善する。

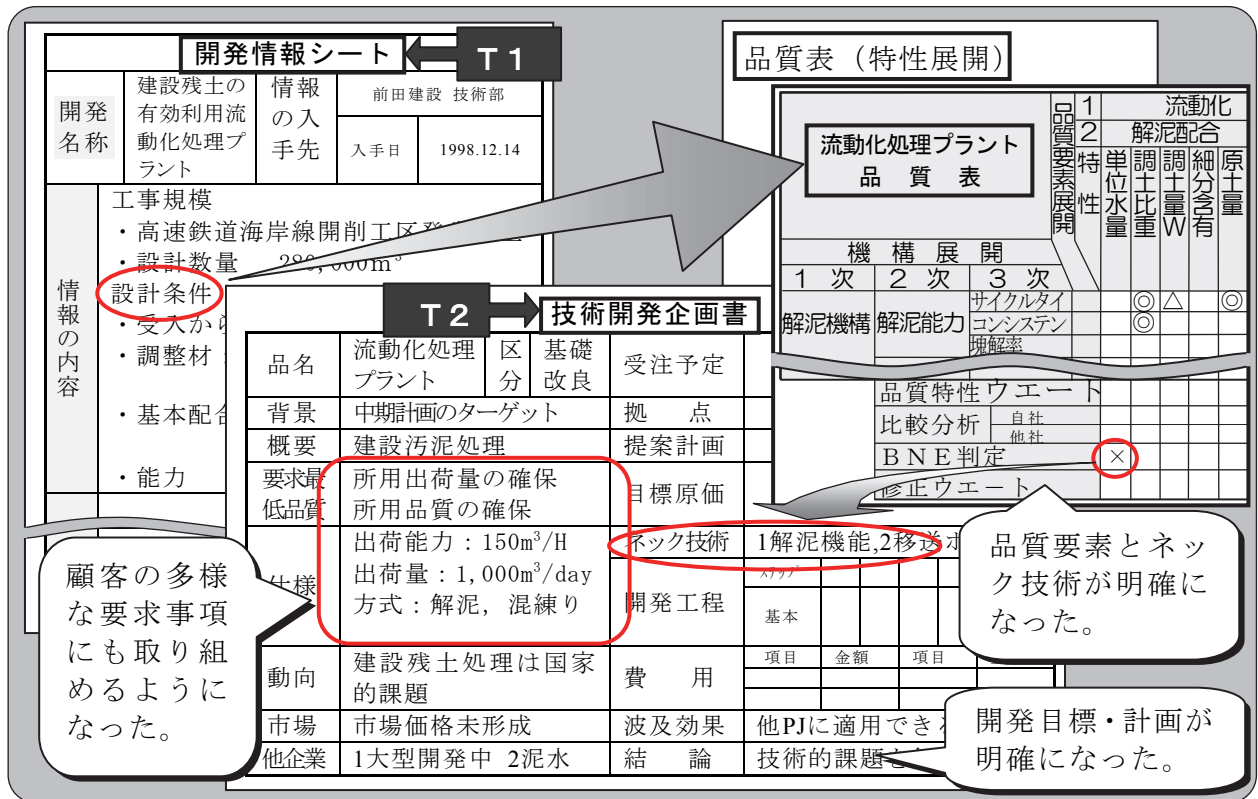


図 8.2.5 「T7」(新技術開発7つ道具)による企画力の向上